

## 日本畜産学会第110回大会の動物コンクールの結果

日本畜産学会第110回大会（2009,3,27-29. 日本大学生物資源科学部）に際して、（社）日本畜産学会と第110回大会運営委員会の主催により、動物コンクールが開催されました。本企画は日本畜産学会としては初の企画であり、学生・児童・園児を対象としたものです。小中高校の学生・生徒グループあるいは指導者（教員）を対象とした「動物介在教育の部」と小学生や園児を対象とした「動物のはがき絵の部」を設けました。この企画に対して、日本全国から多くの応募がありました。応募数は「動物介在教育の部」に対して16件（高校：11，中学校：2，小学校：3），「動物のはがき絵の部」には725通でした。受付終了後に審査会を開催し、授賞事例や作品を選定しました。

本コンクールの授賞式は動物介在教育シンポジウム（3月28日開催）の中で行われ、「動物介在教育の部」の最優秀校の発表（高校の部：群馬県立富岡実業高等学校畜産部，小・中学校の部：荒川区立ひぐらし小学校）が行われました。

### 「動物介在教育の部」

#### 高校の部

最優秀賞：

群馬県立富岡実業高等学校畜産部（山口愉隆・北村啓祐）：

富実式自然養豚飼育による豚肉の生産～安心・安全・高品質な富実ポークを消費者へ提供～

優秀賞：

1) 秋田県立大曲農業高等学校畜産部（奥山 豊・照内之尋）：

魔法のじゅうたんに乗って Hop Step Jumpig ～豚の早期出荷にかける飽くなき挑戦～

2) 大阪府立園芸高等学校 ハニービーサイエンスクラブ（尾崎幸仁・藤原佐智）：

小学校・保育園でミツバチの観察とハチミツ絞り体験

3) 大阪府立農芸高等学校 資源動物科 ふれあい動物部（吉田文三・中田真理子）：

青空いきいき農業塾～農業を通して伝える「命」・動物と一緒に広げる地域の「輪」～

4) 愛媛県立伊予農業高等学校 生物工学科 畜産班（中岡壮太郎）：

子豚が生まれすぎても死なせない-離乳頭数を増やし、飼料要求率を高める研究-

5) 熊本県立南稜高等学校（光岡和隆）：

「小動物」における動物介在型交流活動の実践

佳作

1) 大阪府立農芸高等学校 資源動物科乳生産加工部 酪農班（田中夏美）：

高校生による酪農教育活動 ～牛に感謝を～

2) 京都府立須知高等学校 食品科学科 食品加工プロジェクトチーム（山口真弘・石田麻衣）：

京丹波野菜ソーセージの研究

3) 日本大学東北高等学校 理科部（佐藤睦浩・小牧大祐・金沢加奈子・北畠亜季）：

ミツバチの巣箱内の温度環境及び蜂蜜中の花粉について

4) 栃木県立栃木農業高等学校 生活科学科（橋本 智）：

「ものづくり体験教室」での羊の毛刈り・フェルト人形作りについて

5) 岩手県立盛岡農業高等学校 社会動物班（千葉祐悦）：

ラノリンを使った犬猫用ハンドクリーム作り

#### 小・中学校の部

最優秀賞

荒川区立ひぐらし小学校 全学年（伊藤 英夫）：

ひぐらし酪農教育ファーム～農場は命の学校！～

優秀賞

1) 新潟県十日町市立下条小学校 1年1組（木村 志津子）：

めめちゃん だいすき～自分と、やぎと、家族・地域との関わりを～

2) 与那国町立比川小学校 NPOヨナグニウマふれあい広場（久野 雅照）：

在来馬「与那国馬」を使った、小学校運動会における乗馬演技発表

佳作

1) 茅ヶ崎市立北陽中学校（小俣 宏之・熊澤 唯衣）：

蜂新聞（身近なところで見える蜂についての生態を調べ、自然への興味を深くする）

2) 茅ヶ崎市立北陽中学校（小俣 宏之・川口 潤也）：

食の安全

### 動物のはがき絵の部

725点の応募の中から、金賞（9点）、銀賞（23点）、銅賞（63点）が選ばれました。  
その内訳は以下のとおりです。

トトロ幼稚舎（9点）、友愛幼稚園（4点）、名護市立大宮保育園（3点）、名護市立大宮小学校（1点）、富津保育園（2点）、土浦市立大岩田小学校（25点）、大多喜町立大多喜小学校（15点）、美浦村立大谷小学校（8点）、信州大学教育学部附属長野小学校（6点）、横浜市立六浦小学校（5点）、与那国町立比川小学校（6点）、NPOヨナグニウマふれあい広場（1点）、町田市立大蔵小学校（2点）、秦野市立本町小学校（2点）、上越市立里公小学校（1点）、六会学童クラブ（4点）、個人（1点）

後援：日本大学生物資源科学部

協賛：全国農業協同組合中央会，全国農業協同組合連合会，全国酪農業協同組合連合会，  
（社）中央畜産会，（社）家畜改良事業団，（社）中央酪農会議，（社）日本酪農  
乳業協会，関東生乳販売農業協同組合連合会，日本養豚生産者協議会，（社）全国  
酪農協会，（社）全国農協乳業協会，雪印乳業（株）